

単独支援給付金・事業計画書(単独病床機能再編計画)

1 申請者の情報		申請年月日	2022年9月29日
フリガナ	オノダセキジュウジビョウイン	住所・所在地	〒756-0889 山口県山陽小野田市大字小野田3700番地
医療機関の名称	小野田赤十字病院		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	0	40	0	92	0	132	132
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1	0	0	40	80	0	120	80

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分＝高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	0	40	0	92	0	132	132
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3	0	0	40	80	0	120	80

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	0	0	40	52		92	52

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4	0	0	0	0	0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	0	0	0

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5	0	13,097	32,343	45,440
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7	0	0	24,820	24,820

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数＝年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)＝6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①1病棟	地域包括ケア病棟入院料1	回復期	40床	40床
		②2病棟	療養病棟入院基本料1	慢性期	40床	40床
		③3病棟	療養病棟入院基本料1	慢性期	40床	40床
計					120床	120床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和4年度】

R4 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①1病棟	地域包括ケア病棟入院料1	回復期	40床	年 月
		②2病棟	療養病棟入院基本料1	慢性期	0床	R5年1月
		③3病棟	療養病棟入院基本料1	慢性期	52床	R5年1月
計					92床	



【令和5年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
R5 年度	病棟別内訳	以後変更なし				年 月
計					床	
R6 年度	病棟別内訳					年 月
計					床	
R7 年度	病棟別内訳					年 月
計					床	

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。

※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名：小野田赤十字病院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	宇部・小野田医療圏では、回復期の病床が少なく、地域包括ケア病棟の整備や急性期病床からの転換等による回復機能の確保を行う必要があり、他にも後方支援病院の確保や多職種連携による地域包括ケアシステムの構築が必要となっている。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	当院は、地域包括ケア病棟や療養病棟を抱え、回復期から慢性期への円滑な移行ができるよう努めており、同敷地内に老人保健施設と介護医療院を併設し、退院後のケアにも力を入れている。しかし、医療職の離職が増えてきており、適切な病床運営ができなくなってきたため、この度、慢性期である療養病床を削減することとなった。	
病床数の見直し	見直しの考え方	限られた看護師等の医療資源を最大限に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するために、医療圏内で過剰となっている療養病床の削減を行い、手厚いケア部門の充足を図る。また、病床の削減により、当院の経営を安定させる狙いもある。
	対象の病棟・病床の概要	削減対象としている病床は、療養病棟入院基本料1である慢性期病床であり、高齢者を対象とした病床である。
	入院患者への対応	他院への転院の検討や、別病棟への転棟により、該当病棟の患者数を減らしていく。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	当医療圏で慢性期病床が多い状況と、医療職の減少により現状のままでは適切な病床運営ができない当院の状況の、両方を鑑みると、慢性期病床である療養病床の削減は構想の実現に資するものだと考えている。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R4		R5		R6	R7	計
		変更時期		変更時期			
高度急性期							
急性期							
慢性期	△28	R5年1月					△28
合計	△28						△28

※複数年度に渡る削減を予定している場合は各年度に削減(計画)病床数を記載

【参考】R3病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R3(2021)現状	378	1,783	615	1,356			4,132
	②R7(2025)予定	378	1,721	743	1,269	21		4,132
構想	③R7(2025)必要数	328	937	879	1,064			3,208
④構想との差(R3)(①-③)		50	846	△264	292			924
⑤構想との差(R7)(②-③)		50	784	△136	205	21		924